

伊勢湾貧酸素情報（第 2 報）

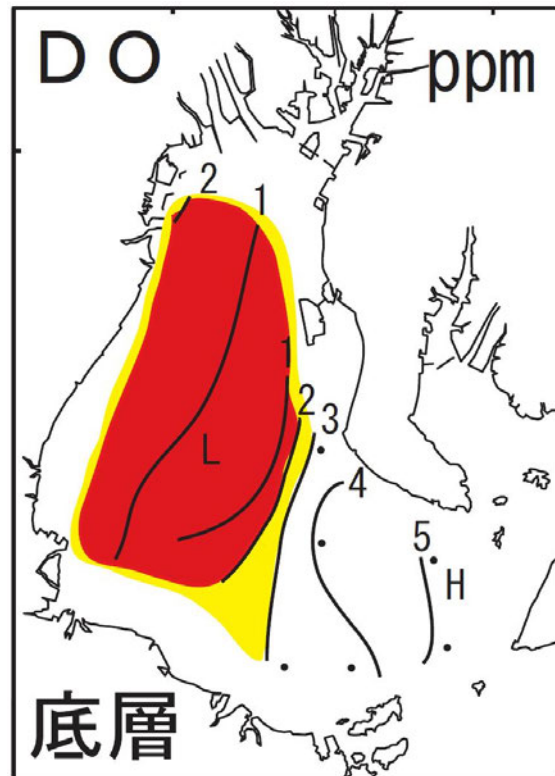
三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

伊勢湾の底層では溶存酸素量の低下が始まり，湾口部を除く湾全域で2ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

7 月 1 日の調査結果

7 月 1 日の調査船「あさま」の定線観測によると，水温は表層で 23.9～27.7℃，10m で 17.7～20.3℃，底層で 15.1～19.9℃の範囲にあり，表層では高め，10m でやや低め，底層では平年並～やや低めとなっていた。塩分は表層で 16.59～28.82，10m で 31.25～33.20，底層で 31.02～34.16 の範囲にあり，表層ではやや高め，10m と底層では平年並～やや高めとなっていた。DO（溶存酸素量）は表層で 4.6～8.0ppm，10m で 4.4～8.3 ppm，底層で 0.3～5.5ppm の範囲にあり，表層では低め，10m ではやや高め～高め，底層では平年並～やや低めで，湾口部を除く湾全域で 2ppm 以下の貧酸素水塊が形成されていた。

調査時は湾奥部の表層では珪藻類のスケイトマ コスタームによる赤潮が発生していた。表層では高水温で低塩分，底層では低水温で高塩分傾向にあるため，上下混合が起こりにくく，底層の貧酸素化が進行しやすい状態にあると考えられ，今後，貧酸素水塊の動向を注視する必要がある。



底層貧酸素水塊分布